

## 貫入試験検査基準

(趣旨)

第1条 この基準は、相模原市道路占用規則（昭和54年相模原市規則第25号）に基づく路面復旧工事において、埋め戻し及び土の締め固め状態を判定することにより、工事完成後の陥没等を防止するための検査について必要な事項を定めるものである。

(適用)

第2条 この基準は掘削を伴う占用工事に適用する。

(試験の立合い)

第3条 試験は、検査員が立ち合うものとする。ただし、検査員が立合いを省略すると判断し、指示した場合は、この限りではない。なお、「貫入試験検査において検査員が現場検査を免除する要領」を参照のこと。

(試験場所)

第4条 試験場所は、任意の箇所を抽出して行うこととし、1工事1箇所以上とする。なお、下水道工事については、「下水道管理者（相模原市長）に対する貫入試験の取扱について」を参照すること。

(試験位置)

第5条 管底の位置から路盤下までの試験をする。なお、下水道工事については、埋め戻しの過程において管防護部（管上30センチメートルまでの部分）及び埋戻し1メートルごとに試験をする。ただし、検査員が本文に規定する試験方法と異なる試験方法で問題がないと判断し、指示した場合はこの限りではない。

(試験方法)

第6条 重量5キログラムの錘を50センチメートルの高さから自由落下させ、一定の深さ（10センチメートル）を貫入するのに要する打撃回数を測定する。

(判定基準)

第7条 埋戻し土の締め固め状態は、別表の基準値に合格するものであること。

(様式)

第8条 この基準により、使用する様式は別に定める。

附 則

この基準は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成12年12月1日から施行する。

附 則

この基準は、平成22年4月1日から施行する。

別表(第7条関係)

埋 戻 し 材 料		箇 所	貫入 10 cm に 対する打撃回数
名 称	規 格		
砕石ダスト	5 mmフルイ通過量が 80 %以上	管防護部	18 以上
再生砕石ダスト		管防護部以外	24 以上
川砂		管防護部	10 以上
山砂	0.074 mmフルイ 通過量が 10 %以下	管防護部	10 以上
		管防護部以外	12 以上
良質発生土	ローム（掘削時と同 等以下の含水比）		10 以上
改良土	改良土仕様書による もの	管防護部以外	10 以上
谷ヶ原浄水場再生砂 （水道管防護材）	再生砂製造等委託仕 様書によるもの	管防護部	18 以上

（上記の基準値は、土研式貫入試験の場合による。）